

令和 5 年度事業計画

令和 4 年度は新執行体制がスタートし、新理事長の方針「ひろげる」をコンセプトに、各種セミナーや勉強会、「日本パッケージデザイン大賞」など従来からの取り組みにとどまらず、前年に引き続きオンライン開催となった「パッケージデザインの学校」や、新たに立ち上げた「日本パッケージデザイン学生賞」など事業の幅や参加者の拡大にも努めてまいりました。新型コロナウイルスが落ち着きつつある中、次第に対面でのイベントも可能となり、各種顕彰事業の贈賞式やリアル参加のセミナー、ワークショップの開催も実現しました。これら事業運営の経験を活かし、さらに多くの人たちにパッケージデザインの魅力や奥深さなどを伝えてまいります。令和 5 年度は、引き続きガバナンス体制の維持強化に努めるとともに、事業においては、オンラインを含む多様な方式でのセミナーや、リアルな展覧会の開催などさまざまに展開してまいります。また、デジタルメディアを活用して、若い世代を含む幅広い方々に向けた新たな情報発信を推進していく予定です。

I. 公益事業

1. パッケージデザインに関する調査・研究及び情報の収集・発信事業

(1) 調査・研究事業

2021 年度より取り組みを始めた委員会分科会活動を継続して推進する。全体共通テーマ「SDGs とパッケージデザインの関わり」を基本に、ユニバーサルデザイン／ローカルパッケージ／若い世代の商品選択、それぞれについて分科会で情報収集・整理を進める。研究準備活動を中心としつつ、ライブラリーサイト「情報の森」を活用して成果発表、情報発信を適宜行う。

(2) 広報事業

(a) 広報誌の制作、発行

JPDA の活動やパッケージデザインの魅力を発信する広報誌「JPDA MAGAZIN」を企画・編集、アニュアルマガジンとして発行する。

(b) アーカイブ活動

次世代へのデザイン資産の継承を目的に、「日本パッケージデザイン大賞」上位入賞作品の収集保管・研究・記録とともにサイトおよびセミナーの形式で情報発信を行う。受賞者のインタビュー録画「声のアーカイブ」を会員専用ページへ継続掲載する。

(3) インターネット事業

インターネット等のメディアによる JPDA の広報活動、及びマイワークスの運営。今年度は、既存サイトや SNS を活用した情報発信に加え、新たに「デジタルマガジン」の構築、運営を図り、パッケージデザインの魅力を伝えるコンテンツを元に、幅広い層へのアプローチを図っていく。

2. パッケージデザインに関する表彰についての公募、審査、受賞者の発表、贈賞に関わる事業及び、パッケージデザインに功績のあった人並びに団体の顕彰等

(1) 日本パッケージデザイン大賞

次年度に公募、審査を実施する「日本パッケージデザイン大賞 2025」の発展・進化のための準備、運営。JPDA を象徴する重要なイベントとして、パッケージデザインの社会的地位向上を目指し企画を進める。

(2) パッケージデザイン功績賞

次年度の贈賞式に向けて、パッケージデザイン功績賞の候補者選考の年とする。パッケージデザインの向上を目指す公益活動の一環として、パッケージデザイン功績賞の位置づけや、贈賞の意義を明確にしつつ、外部有識者の意見も取り入れ、候補者の選考を進める。

(3) 日本パッケージデザイン学生賞

前年に立ち上げた「日本パッケージデザイン学生賞」を実施し、パッケージデザインの世界に、より新鮮で多様な価値をもたらし、将来を担う学生に焦点を当て、作品を公募し表彰する。パッケージデザインへの理解を深めるため、学生を対象としたワークショップも実施する。

3. パッケージデザインに関する展覧会事業

(a) 創作パッケージデザイン展

パッケージデザインを世の中にひろげる、デザイナー同士の交流をひろげる、という目的で、日本の「水、米、酒、塩」をテーマにした創作パッケージデザイン展を東京および京都で開催する。

(b) 中部パッケージデザイン展

2021 年度にスタートした「中部パッケージデザイン展」の第 2 回を 2024 年 3 月に名古屋市内で開催する。多くの中部地域のデザイナーと企業、また学生が参加することで彼らに発表の機会を与え、デザイン活動に刺激を与える場とする。

(c) 日本パッケージデザイン大賞 2023 巡回展

「日本パッケージデザイン大賞 2023」の上位入賞作品を中心に、リアルにパッケージデザインの魅力に接する場として、大阪、富山、東京で巡回展を開催する。

4. パッケージデザインに関する各種セミナー・育成事業

(1) セミナー事業

(a) 日本パッケージデザイン大賞 2023 記念セミナー

日本デザイン団体協議会（略称：D-8）とも連携し、「日本パッケージデザイン大賞 2023」の受賞作品を中心にパッケージデザインの流れを俯瞰する記念セミナーを 6 月に開催する。

(b) グローバルイノベーションセミナー

世界的に活躍する講師を招き、グローバルな視点でのデザインのあり方、他分野とパッケージの関係を語っていただくセミナーを開催する。

(c) 西日本デザインセミナー

西日本地域において、外部講師を招き、デザインセミナーを開催する。

(d) 西日本リアル見学会

西日本地域において、パッケージに関連する工場等の施設を見学するイベントを実施する。

(e) 中日本（北陸）富山デザインフェア

富山市主催のデザイン振興イベントにおいて、学生を対象とした「パッケージデザインコンペティション」入賞作品展及び、JPDA の作品展示をおこなう。

(f) 中日本（北陸）Talk café 2023

次世代のパッケージデザイン界を担う若手デザイナーと学生を対象としたトークイベント「JPDA Talk café 2023 in TOYAMA」（若手デザイナー育成セミナー）を開催する。開催地を富山と金沢を隔年で変更することにより各地域のデザイナーと学生の交流を活性化している。

(2) 権利保護事業

(a) サイトでの知財情報発信

JPDA サイトにて情報発信（知財に関する専門家によるコラム）を継続的に掲載する。また、「デザイン保護ハンドブック」の解説記事も掲載する。

(b) デザイン保護ハンドブックセミナー

前年度に完成した「デザイン保護ハンドブック」は、企業内での知財教育及び新人教育の材料として活用されることを念頭に作成したもので、その解説セミナーを専門家を招き実施する。

(3) 育成事業

2021 年度から 2 年連続で開催した「パッケージデザインの学校 online」は、さらに実用性・魅力を高めてブラッシュアップしていくために、今年度は、次年度開催に向けて、企画の年と位置付ける

5. パッケージデザインに関する国内・国際交流事業

(1) 全国会議事業

(a) 東日本 オンライン交流会

オンライン交流会「みんなでつながろうデザインの輪」が、会員はもとより、一般参加者からも好評だったため今期も継続する。今期 3 回開催予定。

(b) 東日本 東京デザイン会議

「世界デザイン会議」の開催月に合わせ、2023 年 10 月に全国デザイン会議を東京にて開催する。JPDA としてもデザインへの機運の高まりを盛り上げ、幅広い交流に繋がる企画を行う。

(2) 新年交流事業

(a) 東日本 新年デザイン交換会

「新年デザイン交換会」を2024年1月に開催、講演会と新年会の二部構成とする。講演会においてはこれからを担う若手や中堅が興味を抱く内容を企画、新年会では交流促進やマッチングにつながるきっかけを提供していく。

- (b) 西日本 セミナー&デザイン交流会
2月末から3月初旬をに、西日本エリアを中心とした対面でのセミナーと交流会を開催する。
- (3) 国際交流事業
 - (a) 国際交流オンラインセミナー
海外生中継オンラインセミナーを実施。海外で活躍するクリエイターを招き、現地の状況を交えつつ、生中継で講演会を開催する。
 - (b) アジアパッケージデザイン会議 (APD)
JPDA がホストとして2021年にオンライン開催したAPDは、次回2024年に韓国で開催される。開催に向けて各地域のパッケージデザイン団体の代表者による会議を、2023年度中に韓国ソウルで開催予定。代表者の交流とAPDソウル会議内容の事前共有を図る。
 - (4) 東日本大震災復興支援事業
東北地方の復興支援の一環として、今期も引き続き、経済産業省東北産業局主催の「おいしい東北パッケージデザイン展」の展覧会、フォーラムなどの後援や、審査員の協力をする。

6. パッケージデザインに関する出版事業

(a) 年鑑日本のパッケージデザイン 2023

「日本パッケージデザイン大賞 2023」の入賞・入選作品を掲載した「年鑑日本のパッケージデザイン 2023」を2023年5月に発刊する。今回応募された方々をはじめとして、パッケージデザインに関わるすべての法人、個人、大学、公共機関へ向けて、大賞及びJPDAについて理解を深めていただく媒体、資料として機能していく。

(b) PACKAGE DESIGN INDEX 2024

2024年5月発刊を目指して「PACKAGE DESIGN INDEX 2024」の企画、募集、編集、制作を行う。年鑑掲載作品とは別の側面を持つパッケージデザイン作品集として、パッケージデザインに関わるすべての方へ向けて発信、マーケティング及びブランディング戦略の資料として活用いただく。

(c) 新企画本

前年度より掲載パッケージの公募・収集を進めてきた新企画本「ステキなパッケージ」は、2023年度は、出版社探索のための準備期間とし、編集デザイン作業を継続する。

II. 収益事業

1. アジア学生パッケージデザイン交流プロジェクトの受託事業

平成27年6月、(独)国際交流基金とアスパック協会が推進するアジア学生パッケージデザイン交流プロジェクトを受託することで変更認定を受けたが、令和2年度になり、新型コロナウイルス

ィルス感染拡大の影響で、アスパックの全ての事業が中止となり、令和3年3月をもって主催者であり事業の受託元であるアスパック協会も解散となったことから、当協会の収益事業も中止となっている。今年度は引き続き、これに代わる新たな収益事業の探索・検討の年と位置づける。

III. 法人事業

1. 総務事業
特になし

以上